



こどもの居場所づくり 事例集



Saitama Prefecture



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

ご挨拶

現在、長引く物価高騰の影響を受けて、生活にお困りの家庭が増えており、子どもたちを取り巻く環境は厳しさを増しています。

こうした状況の中、子ども食堂、学習支援、プレーパークなどの「こどもの居場所」は、子どもたちが安心して過ごせる居場所として、その重要性がいっそう高まっています。

また、子どもだけでなく、地域にとっても、様々な人々が交流する貴重な拠点として、多くの役割が期待されています。

こどもの居場所は、ご飯を食べたり、遊んだり、勉強を教えてもらうだけでなく、信頼できる大人と出会うことで、「自分は皆から愛される存在なのだ」という「自己肯定感」や「生きる力」を育む場としても期待されています。

埼玉県では、これからこどもの居場所づくりに取り組む方や、活動の幅を広げようと考えている運営者の皆さまに、多くの好事例を紹介し、参考にいただくために、県内各地にあるこどもの居場所の取り組みを集めた「こどもの居場所づくり事例集」を定期的に作成しています。

本事例集では、地域ネットワークと連携して活動しているこどもの居場所や、学生が主体となって運営する居場所、こどもの居場所の活動を支援する企業の取り組みなど、多様な事例を紹介しています。

また、「こどもの居場所づくりアドバイザー」を利用して新たにこどもの居場所を立ち上げた事例も取り上げています。

アドバイザーには、こどもの居場所の運営者をはじめ、衛生管理や広報の専門家など、多くの団体・個人が登録されていますので、自分でもこどもの居場所を立ち上げたい、関わりたいとお考えの方は、ぜひアドバイザー制度をご活用ください。

子どもたちが誰ひとり取り残されることなく、未来に夢と希望を持てる社会を実現していくには、本事例集を手にとっていただいた皆様方のお力添えが必要です。県としても、そうした皆様方の取り組みを全力で支援してまいります。

本事例集を通じて、それぞれに創意工夫を凝らした、地域ならではのこどもの居場所が生まれ、活動が継続していくことを祈っています。

結びに、本事例集の作成にあたり、ご協力いただきました多くの皆様に心から感謝申し上げます。

令和7年3月
埼玉県福祉部子ども支援課長

こども食堂

- アモーレ(=愛)の心で、地域の未来をつくる 埼玉県子ども食堂ネットワーク… 4
- 優しさが循環する居場所 地域食堂Smile …… 6
- まなびと感謝が生まれる食堂 FUKAYA KIDS BASE・YORII KIDS BASE… 7
- 学生の運営するこども食堂 ほのぼのハウス …… 8
- 地域みんなが、はつらつと輝く場所に 地域食堂はつらつ… 9

学習支援

- こどもの主体性と自信を育む フリースペース ムササビルーム… 10
- お寺から始まる、こどもたちの未来の居場所 智ちゃんの寺子屋… 11

プレーパーク

- みんなでつくる、こどもの遊び場 埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会… 12
- つまらないも大切!こどもと一緒につくる遊び場 もりとこプレーパーク… 13

その他の場所

- こどもたちの心の居場所づくりを
こどものためのほっこりスペース「HASHIRA」… 14
- 地域に愛されるこどもたちの憩いの場 コミュニティスペースさくらんぼ… 15

フードパントリー

- 草の根の活動から生まれた大きな力 埼玉フードパントリーネットワーク …… 16
- 多様なボランティアが支える、あたたかい活動
なないろフードパントリーさいたま… 18
- お互いさまの気持ちで、地域全体で支え合う社会の実現を
羽生子育て応援フードパントリー… 19

支援企業

- バランスのとれた冷凍のお惣菜で子育て世帯を支えたい! ワタミ株式会社… 20
- サッカーを通じてこどもたちに笑顔を届ける! 浦和レッドダイヤモンズ株式会社
- 飲み物を買うだけでこども食堂へ寄付ができる!? 株式会社伊藤園… 21
- 「もったいない」を「ありがとう」へ! 株式会社セブン-イレブン・ジャパン
- 埼玉県も応援しています… 22





こども食堂

アモーレ(=愛)の心で、地域の未来をつくる

埼玉県子ども食堂ネットワーク

県域ネットワーク

■ 埼玉県子ども食堂ネットワークの活動

埼玉県子ども食堂ネットワークは令和6年12月31日現在、230団体が加盟し、県内15エリアで活動しています。活動内容は、加盟団体間の交流会や、相談会の開催、企業との連携による支援活動などです。交流会では、運営に関する情報交換や悩み相談が行われ、団体同士のつながりを深めています。相談会では、こども食堂を始めたい方へ向けて、こども食堂の実践者に立ち上げを振り返ってもらったり、体験談を語ってもらったりしています。



■ 地域と共に、こども食堂が担う役割

こども食堂は、貧困対策、子育て支援、地域づくりなど多様な役割を果たしていますが、活動内容やその意義についてはまだ十分に理解されていないのが現状です。

こども食堂の活動支援や情報発信を通じて、その意義をより多くの人に知ってもらうことを目指しています。相談会の実施や情報共有などを通じて、運営に関する悩みや課題解決のサポートも行い、地域におけるこどもの居場所づくりを支援する重要な役割を果たしています。



こども食堂の役割が広がる中で、もっと地域の人たちに当たり前の存在として知ってもらい、安心・安全で、見守られている雰囲気をつくることで、地域で取り残される人を減らし、活動の意義を高めていきたいと考えています。そのために、こども食堂を上手に利用し、地域の人とつながり、あたたかさを感じてもらいたいと思います。

■ コロナ禍でも、支援を止めない

コロナ禍により会食形式での開催が難しい時期には、弁当配布に切り替えるなど、市民活動ならではの状況に応じた臨機応変な対応で、こどもたちへの食支援を止めることなく継続してきた団体が、ネットワークにはたくさんあります。

こうした経験を経て、現在は、会食とお弁当配布のハイブリッド形式で開催する団体が多くなっています。食堂の活動に加えて、日用品などの物資を配布する団体や、遊びの時間を設けるなど、新たな活動に発展しているケースもあります。このように、コロナ禍で試行錯誤しながら、経験を活かして支援の幅を広げ、こどもたちの成長をそれぞれの地域でサポートし続けています。

■ 企業との連携で広がる活動

一般社団法人になったことで、企業からの声かけが増えてきています。県域をカバーする窓口として、応援してくださる企業からも、ワンストップで寄付が行える状況は好評です。食材提供を受けた場合は、まず県内を15に分けた各エリアに分配し、そこから各こども食堂に食材を届けています。

企業からの申し出で、バスを手配してもらい、農場での収穫体験やキムチ作りの遠足イベントを実施したり、道の駅でこども食堂を開催したり、遊びのブースを提供したりと、多様な体験の機会が増えていきます。



▲ 武蔵野銀行フードドライブ贈呈式

■ 官民連携が埼玉県のこども支援の強み

埼玉県子ども食堂ネットワークは、発足の頃から県とともに「こども応援ネットワーク埼玉」の共感の輪を広げてきました。「こどもの居場所づくりアドバイザー」としても、多くのメンバーが活躍し、県内のこども食堂づくりを支援してきました。主体的な活動を尊重しながらの官民連携が、埼玉県のこども食堂の広がり原動力になっています。こうした柔軟な連携によって、多くのこども食堂が誕生し、応援する企業も増え、県内各地域でこどもを支援する機運が醸成されつつあります。

こどもの居場所づくりは、県から市町村にバトンが渡されつつあります。これからは地域の力が大きくクローズアップされます。県だけでなく市町村ともさらに連携して、こども食堂の取り組みを広く知ってもらえるよう努めていきます。

埼玉県子ども食堂ネットワーク代表 東海林 尚文さんの思い

こどもたちは無限の可能性を持ち、それを引き出すには地域全体で支え見守ることが重要だと考えています。「こども食堂」が、こどもたちに「一人じゃない」「ここに居場所がある」と伝えるあたたかい場となり、地域に根付くことを願っています。また、運営者が楽しく活動を続けられるようサポートし、ネットワークが頼られる存在になることを目指しています。

こども食堂を通じて新しい社会の実現に向けて取り組む強い意志を持っています。

- 名 称 一般社団法人 埼玉県子ども食堂ネットワーク
- 所在地 さいたま市大宮区桜木町2-3 大宮マルイ7F
- 問合せ ☎ 090-9670-9588(東海林) ☎ 049-263-6951
✉ saitama.ks.net@gmail.com
[HP] <https://www.saitama-kodomo.net>

WEB





優しさが循環する居場所 地域食堂Smile

■ 親子・若者支援から生まれた食堂

行政の支援が届かない親子や、児童養護施設出身の若者など、困難を抱える人々に寄り添う中で、安心して過ごせる居場所の必要性を感じていました。それまでの活動拠点が使えなくなるという状況にみまわれ、多世代交流型の地域食堂という新たな支援の形を模索し始めました。資金調達の困難もありましたが、坂戸市の助成金を活用することで、地域食堂Smileの設立を実現できました。



▲ 食事風景

■ 多世代が集うみんなの居場所づくり

多世代交流型の食堂として第2日曜日に、こどもから高齢者、障害者まで、誰でも参加できる開かれた空間を提供しています。食事だけでなく交流やイベントも開催し、孤立を防ぐ支援に取り組んでいます。

参加者の得意分野を活かす主体的な参加を促し、セラピーワーク、ディンプルアート、プログラミング体験など、活動は多様です。こうした参加型の運営で利用者からスタッフになったり、自分らしく貢献できることで支援者にとつての「居場所」にもなっています。

■ 課題を乗り越え目指す「優しさの循環」

「優しさが循環する居場所」として、子育てサロンの再開や食事内容の充実なども検討しています。また「自然体で居ても良い場所」として、こどもが自由に過ごせる居場所にしているので、その活動が生活につながるような支援をしたいと考えています。一方で、資金面や運営体制には課題もあり、安定的な資金確保やボランティアの負担軽減など、目の前の課題を乗り越えながら持続可能な活動を目指しています。

地域食堂Smile代表 森川 理江さんの思い

親子や生きづらさを抱える人たちが、笑顔で過ごせる場所を作りたい。親子支援や地域食堂を通して、安心して集える居場所を提供したいのです。何か始めたいと思ったら、自分の思いを大切にしながらも、対象者の声に耳を傾けて「ニーズベース」で、活動することが大事だと思います。誰もが「やさしさ」を感じられる社会を、皆さんと一緒に作っていきたいです。

- 名 称 地域食堂Smile
 - 開催日時 第2日曜日 12:00~15:00(会場都合により変更有)
 - 開催場所 坂戸市入西地域交流センター
 - 利用料 こども・障害者 無料／子育て家族・社会的養護出身者 300円／一般 500円
 - 申込み 公式LINE、電話、HPに記載の申込みフォーム(毎月作成)
 - 実施団体 親子応援ネットワークSmile
 - 問合せ ☎090-4419-1386(森川) ✉oyakosmile2@gmail.com
- 【HP】<https://oyakosmile.amebaownd.com>
【公式LINE】<https://lin.ee/GewDogp>

WEB





こども食堂

まなびと感謝が生まれる食堂

FUKAYA KIDS BASE・YORII KIDS BASE

■ 高校生の一言から生まれた「居場所」

深谷市で無料の夜間学習塾を運営しています。そこに参加している高校生からの「お腹がすいた」という言葉をきっかけに、2023年8月にこども食堂「FUKAYA KIDS BASE」を開設しました。

誰でも安心して集える場所、学び合えるコミュニティを作りたいという思いから、深谷市と寄居町の2拠点で活動を展開しています。深谷市では週2回、寄居町では月1回、バイキング形式のこども食堂を開催。こどもたちは好きなものを選んで食べることができ、毎回賑わっています。利用料はワンコイン制にすることで、お金の流れや感謝の気持ちを学ぶ機会を設けているのも特徴です。



▲ ビュッフェ形式で好きなものが食べられます！

■ 「学び」をテーマに、未来へ繋ぐ

活動は食事の提供だけにとどまらず、農家や企業と連携した食育や農業体験イベントを実施し、フードロス削減にも取り組んでいます。夏休みには学習支援、定期的にキッズマネー教室や交通安全教室を開催するなど、「学び」の機会も提供しています。来年度は「学び」をテーマに、学習支援やイベントを通してこどもたちの学習意欲を高めていきたいと考えています。

■ 持続可能なコミュニティスペースを目指して

ボランティアの高齢化という課題に対しては、学校と連携した学生ボランティアの参加促進を検討しています。また、地元企業との連携強化による活動資金の安定的な確保も目指しています。地域住民の協力のもと、こどもたちの健やかな成長と学びを支援する持続可能なコミュニティスペースとして発展させていきたいと思っています。

FUKAYA KIDS BASE・YORII KIDS BASE代表 木田 陽子さんの思い

こどもたちが楽しく健やかに育つことを願っており、地域全体でこどもたちを見守り、育てる環境をつくるのが重要だと考えています。地域の大人が力を合わせ、こどもたちの成長を見守っていける、そんなあたたかいコミュニティを作っていきたいと思っています。

● 名 称	FUKAYA KIDS BASE	YORII KIDS BASE
● 開催日時	木、土 12:00～13:00 不定休あり	祝日 不定期
● 開催場所	ワモア川本(深谷市菅沼401)	ユウネス(寄居町保健福祉総合センター) (大里郡寄居町保田原301)
● 利用料	一般500円、大人(こどもと一緒に来店)300円 こどもワンコイン	大人300円、こどもワンコイン
● 申込み	専用リンク	公式LINE、予約専用サイト
● 実施団体	深谷子どもの居場所作りの会	
● 問合せ	☎ 070-5013-7338(木田) ✉ fukayakb.2023@gmail.com 【公式LINE】 https://lin.ee/2nqIkbt	





こども食堂

学生の運営することも食堂 ほのぼのハウス

■ 社会貢献したい! ゼミの体験から実践へ

獨協大学の学生たちによって設立された、草加市内で活動するこども食堂です。きっかけは、ゼミでSDGsについて学び、その一環でこども食堂のボランティアに参加した経験です。自分たちの力で何かできないか、自分たちの手で社会貢献したい、という思いから2023年5月に一回目のこども食堂を開催しました。



▲ みんなで仲良くいただきます!

■ 大学から、地域から、多様な支援に支えられて

学生とこどもたちの距離が近いことがほのぼのハウスの特徴です。食事提供だけでなく、一緒にデザートを作ったり、SDGsをテーマにしたクイズ大会をしたり、楽しみながら学べる工夫をしています。

運営には、ゼミ教員から活動内容についての助言を受け、地域住民からは協力の申し出もありました。草加市を中心としたこどものための活動団体のネットワークに加盟したことで、食材提供などの支援も受けています。多方面からの協力や支援を受け、こどもたちに食事だけでなく、学びと楽しみを提供する場となっています。


■ 活動の輪を広げるボランティアの呼びかけ

今後は開催頻度を増やし、より多くのこどもたちが集える居場所づくりを目指しています。活動の継続には、ボランティアの確保が課題です。学内の学生たちに広くボランティア参加を呼びかけ、活動の輪を広げていきたいです。

学生運営なので、体力を使う遊びも得意です。大学生として、こどもたちの将来モデルとなれるよう、楽しい雰囲気も大切に活動が続けたいと思います。

ほのぼのハウス代表 小林 凧さんの思い

こども食堂への学生の関心が高まっていることを実感しています。関心を持つだけでなく、実際に身近なこども食堂の活動に参加することで、より深い理解と興味を持つきっかけにしてほしいと考えています。そしてその経験を活かし、仲間と共に新たなこども食堂を立ち上げる人が増えることを期待しています。

- 名 称 ほのぼのハウス
- 開催日時 不定期
- 開催場所 獨協大学コミュニティスクエア／草加市文化会館 等
- 利用料 こども 50円／大人 200円
- 申込み 事前予約制(Googleフォーム)
- 実施団体 獨協大学 香取ゼミ
- 問合せ  hnbhouse.2023@gmail.com 【公式LINE】 <https://lin.ee/7BJ2egr>
【Instagram】 https://www.instagram.com/hnbn_house/





地域のみんなが、はつらつと輝く場所に 地域食堂はつらつ

■ 地域再生、賑わいを取り戻す「地域食堂」

地域食堂はつらつは、自身のこどもが通う小学校の創立記念行事で聞いた話がきっかけで始まりました。かつては賑やかだった地域の様子と、現在の高齢者の孤立や町の活気のなさを目の当たりにし、こどもと高齢者が交流できる場を作り、地域を活性化したいと強く願うようになりました。長瀬町で開催された県の「こどもの居場所づくり相談会」にも参加し、天理教が所有する広い敷地と、友人から得たこども食堂の運営に関する情報を参考に、活動をスタートさせました。



▲ チキンライスの日の会場の様子

■ 地域に根ざした交流の場を提供

2ヶ月に1度のペースで、土日に天理教の敷地内で地域食堂を開催しています。活動内容は、会食形式での食事提供が中心です。調理から食事まで全て敷地内で行い、夏には流しそうめんやかき氷などで季節感を取り入れています。状況によってお弁当配達も行っています。当初は社会福祉協議会と協力し140食のお弁当配布をしていましたが、現在は近隣の住民や口コミで知った親子連れを中心に、約50人が利用しています。

■ 一芸を持ち寄って、活気づくり

地域食堂はつらつは、世代間交流の促進を目指しています。地域の一芸を持つ人や、フラダンスや歌のチームとの交流、高齢者とこどもの交流などを構想しています。災害時の拠点としての役割や、学習支援の場としての活用も視野に入れています。地域食堂を通じて、幅広い世代が集い、コミュニケーションを楽しみ、幸せな気持ちになれる場に育つことを願っています。

地域食堂はつらつ代表 中畝 宏之さんの思い

お年寄りからこどもまで幅広い世代が交流し、いきいきと過ごせる場所を目指しています。昔遊びの伝承など、世代間交流を通じた地域活性化も目標の一つです。地域によっては閉鎖的な面も残りますが、お年寄りが気軽に集える場所にしたいと考えています。近所付き合いが減っている昨今、顔を合わせて食事を楽しみ、皆が幸せな気持ちになれるような、あたたかい交流の場を提供したいと思っています。

- 名 称 地域食堂はつらつ
- 開催日時 基本的には2ヶ月に1回、土日のいずれかで開催 11:30～12:30
- 開催場所 秩父郡長瀬町本野上715 天理教野上分教会
- 利用料 高校生以下無料 大人200円
- 申込み 電話(地域食堂の為、長瀬町の下宿区のみ)に回覧板にて告知)
- 実施団体 天理教野上分教会
- 問合せ ☎ 0494-66-0265 ✉ tenri.nogami@major.ocn.ne.jp



こどもの主体性と自信を育む フリースペース ムササビルーム

■ コロナ禍に生まれた、新たな学びの場

コロナ禍に、こども食堂を運営する団体さんの声かけで、新座市で学習支援を始めることになりました。東京の文京区で有料のフリースクールを運営していますが、声をかけていただいた団体さんの「非課税世帯や貧困世帯へのサポートをしたい」という地域課題に共感し、無料のフリースペースでオープンしました。カリキュラムは設けず、こどもたちが過ごし方を主体的に決めています。自分のできる範囲で学習し、質問があればサポートするスタイルです。



▲ 学習時間の様子

■ いろんな居場所で、自信を育てるこどもたち

教員や保育士の資格を持つスタッフが、1日に3～5人の児童に対応しています。放課後等デイサービスなどでの障害児支援の経験を活かし、コミュニケーション支援も行っています。1年ほどの運営を経て、こどもたちが自信を持って他の居場所にも行けるようになってきたことに、成長の喜びを感じています。「自分にとって居場所がいくつもある」ことが、自信につながっているようです。

■ ネットワークへの参加で広がった連携

市内の居場所ネットワーク「こどもまんなかネットワーク新座」に加盟したことで、学校や地域の関係機関との連携が広がりました。埼玉県での活動に、安心感も生まれてきました。最初はこどもたちが来ない時期もありましたが、その間に小学校などを訪問し、つながりを持てたことが今に活きています。教育相談センターとの連携や在籍校への活動報告も可能になり、学校の出席扱いとして認められるケースも出てきました。市内の他の学校の児童にも利用を広げたいと思います。

フリースペース ムササビルーム代表 金木 悠さんの思い

こどもの居場所づくりには、作り手自身が楽しむことも大切です。ご自身が無理なく活動を継続されることを願っています。居場所をオープンした後に、こどもたちが思うように集まらないなど、様々な課題に直面することもあるかもしれません。行政や近隣の居場所づくりをされている方々と連携することで、課題を克服できることもあります。お互いを認め合い、安心して過ごせる居場所を作り続けていきたいと考えています。

- 名称 フリースペース ムササビルーム
- 開催日時 毎週水曜日10:00～14:00(5週目休室)
- 開催場所 クブハウス(新座市道場2-3-15)／道場集会所(新座市道場1-13-53)
- 利用料 無料
- 申込み 公式LINE、HP
- 実施団体 特定非営利活動法人Woods
- 問合せ ☎ 090-4758-1059 ✉ info@woods-c.com
[HP] <https://woods-c.com/musasabi-room/donate/>

WEB



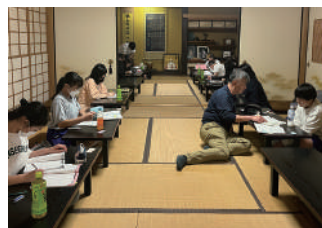


お寺から始まる、こどもたちの未来の居場所

智ちゃんの寺子屋

■ 「やりたい」の声から始まった寺子屋

八潮市のお寺でこどもたちの居場所づくりに取り組む「智ちゃんの寺子屋」は、コロナ禍で人とのつながりの大切さを再認識し、「お寺で何か始めたい」という思いから始まりました。周囲の「やってしまおう!」という後押しもあり、カレンダー作りのイベントから活動がスタートしました。



▲ 学習風景

■ いつでも誰でも来られる学習支援

現在は毎週、学習支援活動を行っています。こどもたちは、自分で持ってきた宿題などに取り組み、それぞれのペースで学習を進めています。以前は受験生が多く参加し、大学生や中学生が教え合うなど、活気のある場所でした。現在は少人数ですが、「いつでも、誰でも来られる場所」として継続することに意義があると思っています。活動の対象は中高生ですが、参加条件はなく、誰でも歓迎しています。不登校のこどもが寺子屋に通うことで学校に行けるようになったケースもあり、やりがいを感じています。

■ 地域への愛着と未来への願い

智ちゃんの寺子屋があるのは八潮市内ですが、地元である三郷市への愛着もあり、今も地元の先生や友人とのつながりがあります。「やりたい」という思いを声に出すことで、三郷市の仲間からも協力の手が差し伸べられています。この居場所を通して、こどもたちが地域の人に何かしてもらったという経験を積み、将来同じようなことを人にできる大人になってほしいと願っています。

今後の展望としては、こどもたちだけでなく高齢者の居場所づくりも視野に入れていきます。地域の方々と協力しながら、誰もが安心して集える場所を提供したいと考えています。

智ちゃんの寺子屋代表 宮本 智子さんの思い

「お寺で何か始めたいんだよね」と、やりたいことを声に出したことで、共感の輪が広がり、現在の活動が生まれました。「こどもたちのために何か始めたい!」と思ったら、その思いを言葉にして、いろんな人に話してみましよう。周りの方が協力してくれるかもしれません。私自身の経験から、実際に声に出してみることは、とても大事なことでと実感しています。

- 名称 智ちゃんの寺子屋
- 開催日時 毎週木曜日(第5週は休み)
- 開催場所 福寿院(八潮市大曾根249)
- 利用料 無料
- 申込み 電話
- 実施団体 智ちゃんの寺子屋
- 問合せ ☎ 048-996-0751(福寿院)

【Instagram】 <https://www.instagram.com/fukujuin249/>





みんなでつくる、こどもの遊び場

埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会

県域ネットワーク

■ ネットワークの強化で、続々誕生プレーパーク

「埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会(さぼれん)」は、埼玉県内で冒険遊び場(=プレーパーク)の活動をする個人・団体のネットワーク組織です。

昨年度は、県の補助事業を活用して、県内のネットワークの強化に取り組みました。その結果、新たにプレーパークが5カ所誕生し、春日部市、川越市、上尾市等で新たな活動が始まっています。



▲ のびのび遊べる場所をみんなでつくろう！

■ 人材育成から開設支援、活動交流で広がる遊び場

これまで3年にわたり、さぼれんでは遊び場の環境づくりと子どもへの関わりについて学べる「プレーリーダー基礎研修」を継続してきました。毎年15人前後の受講者があり、その中から地元でプレーパークづくりを始めるケースも増えてきています。県の「こどもの居場所づくりアドバイザー派遣制度」を活用した開設支援や運営支援も行っています。活動を始めたプレーリーダー同士が課題を共有し、継続的により良い運営が実践されるようプレーリーダー交流会も開催しています。



▲ プレーリーダー交流会には県内あちこちからたくさんの方が集まりました

■ こどもたちの成長を支える、持続的な仕組みづくり

さぼれんは埼玉県内の遊び場づくりに関わる多様な人々や組織のネットワークとして、こどもたちがのびのび遊ぶことのできる地域社会づくりを目指しています。助成金や行政からの支援を受けながらの運営で資金確保は課題ですが、「こどもまんなか社会」の「こども主体」の遊びの場づくりと運営の仕組みづくりを呼びかけ、力を合わせて取り組んでいます。

埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会代表 佐藤 美和さんの思い

こどもの居場所づくりの中でもプレーパークはハードルが高いと思われるがちですが、一人からでも始められるノウハウと支援体制がさぼれんにはあります。実際に始めてみると、きっと楽しい発見がたくさんあります。ぜひ一緒に、遊びあふれるまちをつくっていきましょう。

● 名 称 埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会

● 問合せ ☎ 090-7179-5436(佐藤)

✉ saboren2007@gmail.com

【HP】 <https://saboren-playpark.jimdofree.com/>

WEB





つまらないも大切!こどもと一緒につくる遊び場

もりとこプレーパーク

■ 休止中のプレーパークを引き継ぎ再開

もりとこプレーパークは、休止していたプレーパークを、前任者から引き継ぎ再開しました。さいたま市でプレーパークを利用していました。引っ越した近隣にはプレーパークがなくさいたま市まで通っていました。北本市で休止中のプレーパークがあると聞き、前任者たちとミーティングを行い、雑木林という場所の良さに心をひかれ、一緒に運営してくれる仲間とともに引き継ぎ再開を果たしました。



▲ 手作りぶらんこ

■ 挑戦を尊重するための大人の役割

プレーパークには決まったプログラムはなく、こどもたちが自由に遊びを見つけれられる環境があります。焚き火をしたり、自然の中で探検することで、こどもたちは自主性を育みます。大人は、こどもが気づけない危険(ハザード)を取り除きつつ、回避できる危険(リスク)は残し、こどもたちがリスクを乗り越えながらも挑戦する気持ちを尊重しています。こども主体やこども参画を大切にするために、最後に振り返りの時間を設けて、こどもたちの意見を聞き、次の活動に反映させています。

■ 地域の応援を受けて持続可能な活動へ

スタッフからの口コミでの参加が多いですが、今後は地域とのつながりを強めて、近隣のこどもたちがもっと増えることを目指しています。運営スタッフの確保は課題ですが、地域住民の参加が増えることで、この課題の解決にもつながることを期待しています。北本市社会福祉協議会とも連携し、地域とのつながりを持つ機会や、資金援助、情報提供など、様々な形でご協力いただいています。もりとこプレーパークは、地域と連携を深めながら、こどもたちが自由に遊べる持続可能な活動を目指しています。

もりとこプレーパーク代表 室伏 結子さんの思い

もりとこプレーパークがみんなの居場所になることを願っています。プレーパークは、行けば誰かに会える、安心して過ごせる、そして参加者みんなで作り上げていくものだと考えています。夏には熱中症警戒アラートが出ていても、雑木林の中は涼しく外遊びができる環境です。大人もこどもも共に楽しめる、そんな居場所づくりを実践しています。

- 名 称 もりとこプレーパーク
- 開催日時 毎月1回、日曜日
- 開催場所 北本市緑4丁目196番／市民緑地4号地
- 利用料 無料
- 申込み 不要
- 実施団体 冒険あそび村
- 問合せ ☐ playpark.boukenasobimura@gmail.com
- 【Instagram】 <https://www.instagram.com/moritoko.kitamoto>





その他の居場所

こどもたちの心の居場所づくりを こどものためのほっこりスペース「HASHIRA」

■ 20年間の地域活動の思いが詰まったHASHIRA

自身の子育て中に、地域のこどもたちとつながる必要性を感じ、約20年前から活動を開始しました。18年前にプレーパークを開設し、9年前からはこども食堂も運営しています。こうした活動経験を通じて、コミュニティの希薄化によるこどもたちの生きづらさを実感し、「こどもたちが安心して過ごせる居場所を作りたい」という思いで、「HASHIRA」を立ち上げました。



▲ 小学生と大学生の塗り絵競争～

■ 小学生から高校生まで、のびのび過ごせる居場所

「HASHIRA」の名前は、「鬼滅の刃」で様々な意味を持つ「柱」から、こどもたちの提案で命名されました。現在は、市内の2か所で、小学4年生から高校生を対象に、食事支援を含めた居場所づくりをしています。出入り自由、やることも自由な少人数制で、こどもたちが安心して過ごせる環境になるよう努めています。スタッフに元教師や塾講師がいるので、学習支援も行っています。カリキュラムやプログラムはありませんが、必要なときに個別に勉強を教えてもらえる環境です。

■ さらに地域への広がりを目指して

もっと多くのこどもたちが気軽に集まれるよう、専用の活動拠点の確保を目指しています。また、同じような活動をしている人たちが協力し合い、こどもたちが安心して過ごせる居場所を地域全体で増やしていくことが重要だと考えています。「HASHIRA」を通して、こどもたちが様々な人と出会い、多様な価値観に触れることで、視野を広げ、将来につながる経験をしてほしいと願っています。

こどものためのほっこりスペース「HASHIRA」代表 新妻 朋子さんの思い

「困っているこどものために何かしてあげたい」と思うことも大事ですが、まずは「こどもたちと一緒に楽しむ仲間」として、スタッフ自身が楽しむことが大切だと考えています。話を聞いたり、悩みを聞いたり、一緒に会話を楽しむことを心がけています。居場所では、こどもたちのありのままを受け入れていきたいと思っています。

- 名 称 こどものためのほっこりスペース「HASHIRA」
- 開催日時 クアッカ：第2土曜日10:00～14:30／ログハウス：夏休み期間など不定期
- 開催場所 クアッカ（蕨市中央3-13-1）／ログハウス（蕨市南町2-30-15）
- 利用料 なし
- 申込み 必要なし 好きな時間に直接来てください
- 実施団体 タ方からの居場所づくり「ぽっかぽか」
- 問合せ ☎090-9230-8919（新妻） ✉ pokkapoka.warabi@gmail.com
【Instagram】 https://www.instagram.com/hashira_warabi/?hl=ja





その他の居場所

地域に愛されるこどもたちの憩いの場 コミュニティスペースさくらんぼ

■ 空き家再生から生まれた、みんなの居場所

コミュニティスペースさくらんぼは、父の「みんなが集まれる縁側のような場所を作りたい」という願いと、空き家問題を解決したいという思いから生まれました。保育士をしていましたが退職することになり、その時期と、コミュニティスペースを始めたいという父の思いが重なり、社会実装などを実験する横瀬町の仕組み「よこらぼ」を活用し、新潟県三条市の事例を参考にオープンを目指しました。



▲ 小学生スタッフと共に縁日イベント大成功！

■ こどもたちの笑顔が集う場所

現在、さくらんぼは小さなこどもからお年寄りまで、気軽にくつろげるスペースとして不定休で営業しています。当初は数人のこどもたちの利用でしたが、現在は町全体に知られるようになりました。放課後になると、一クラス分ぐらいのこどもたちが集まり、駄菓子を買ったり、おもちゃで遊んだり、勉強したりして自由に過ごしています。保護者からも、安心して遊びに行かせる場所ができたと好評です。運営は主に家族で担っており、隣接する事務所で仕事をしながら、こどもたちの様子を見守っています。

■ 地域とともに、多世代の交流拠点へ

地域に根付いたこどもの居場所として、高齢者の利用も促進し、多世代が集える場を目指したいと考えています。オープン時に小学生だったこどもたちが、高校生になっても挨拶に顔を出してくれています。運営についての相談をできる相手が身近にいないことが課題としてありますが、将来的には、より多くの人に関わってもらい、持続可能な運営体制を構築することが目標です。10周年には、地域のみんで楽しめるような記念イベントを開催したいと考えています。

コミュニティスペースさくらんぼ代表 木土 友里さんの思い

こどもの居場所づくりを通して、年齢に関係なく新しいことに挑戦できることを実感しました。やりたいことがある方は、「定年だから」、「今の仕事があるから」と諦めず、ぜひ一歩踏み出してみてください。地域や誰かの役に立てることは、きっと大きな喜びにつながるはずです。私も応援しています！

- 名称 コミュニティスペースさくらんぼ
- 開催日時 不定休(Facebook・Instagramにて毎月営業日の投稿をしています)
- 開催場所 秩父郡横瀬町大字横瀬5314-1
- 利用料 こども無料・大人1時間まで無料
- 申込み 不要(開店時は自由に来店可能)
- 実施団体 有限会社サクラ住研
- 問合せ ☎090-2763-2706



【Instagram】 <https://www.instagram.com/sakulanbo1121/>
【Facebook】 <https://www.facebook.com/sakulanbo1121>



フードパントリー

草の根の活動から生まれた大きな力

埼玉フードパントリーネットワーク

県域ネットワーク

■ ネットワークの役割と活動、広がる食支援

埼玉フードパントリーネットワークは現在、76の加盟団体があり、4,100世帯、延べ10万人以上の親子に食料支援を行っています。昨年度は1,054回のパントリーを開催し、3万4,610世帯に食品を提供することができました。近年では、一つのパントリーが複数の会場で開催されるケースも増え、利用者はより身近な場所で食品を受け取れるようになっていきます。

ネットワークは、農水省のフードバンク活動強化緊急対策事業の関東圏の中核団体に選ばれ、埼玉県内の食料品支援団体を集めて「埼玉フードセーフティネット会議」を毎年開催しています。この会議では、食品ロス削減に取り組む他団体と連携し、情報共有とスキルアップを図っています。また、企業と連携して食品衛生管理ガイドラインを遵守し、食品提供の安定化を目指しています。企業からの信頼を得て、より多くの支援を安心して受けられる仕組みづくりを進めています。



▲ お寺本堂でのフードパントリー(川越市)



▲ ヤオコー様店舗内コミュニティスペースのフードパントリー

■ 「食」でつなぐ地域のセーフティネット

食料支援は、必要としている人に必要なものを届けるだけでなく、利用者につながるための重要な窓口としての役割も担っています。食料提供がきっかけとなり、様々な困りごとの相談に乗ったり、SOSを受け止めたりすることで、地域にとって「食のセーフティネット」としての役割を果たしています。このような活動は、地域に根差してこそ継続的な支援が可能となります。

個々の団体が抱える悩みをネットワークで共有し、支え合うことで、活動を継続していく力になります。安定的に食料を提供できるだけでなく、共に課題を解決していくためにも、ネットワークの存在意義は非常に大きいと考えています。



▲ 衣類などの支援も

■ フードパントリーの持続と発展に向けて

昨年は197トンの食品を各団体でシェアしました。しかし、食料を集めるには、交渉や調整といったマッチング作業に人件費がかかります。現状はほぼボランティアベースで行っており、本来は人件費が必要な部分をボランティアに頼っていることが課題です。また、食料品の保管や運搬といった物流の問題もあり、これらを持続していく方法も課題となっています。

フードパントリーの活動は、まだ十分に知られていません。より多くの人々に活動内容や必要性を理解してもらうために、広報活動や情報発信を強化する必要があります。また、企業や行政との連携を通じて、フードパントリーの認知度向上と活動の拡大を目指しています。将来的には、フードパントリー活動を、地域に根付いた活動として継続していくことが期待されています。そのためには、行政や企業との連携を強化し、地域住民の理解と協力を得ながら、活動を発展させていくことが重要です。



▲ 中間拠点へ大量支援の搬入


■ 埼玉県や県内企業の力強いサポートを受けて

埼玉県は、埼玉フードパントリーネットワークの活動を積極的に支援してくれています。県の「こどもの居場所づくりアドバイザー派遣制度」や企業とのマッチングなど、多岐に渡る支援があり、ネットワークの活動拡大の大きな力となっています。

企業との連携も進めています。企業は、食料品だけでなく、こども向けの自転車ヘルメットの提供や体験型イベントの開催など、多様な方法でネットワークを支援してくれています。また、ネットワークの課題解決を支援する企業も現れ、システム開発や倉庫スペースの提供など、中間支援組織としての活動をサポートしてくれています。

埼玉フードパントリーネットワーク代表 草場 澄江さんの思い

この活動は、困っている子育て家庭と地域のパントリーが、1対1で丁寧に関わることで成り立っています。こどもたちの状況や困りごとを把握し、時には愚痴を聞いてあげるなど、それぞれの家庭に寄り添った支援を続けています。支援をされたこどもたちが、今度は地域のことを考えてくれるような、明るい豊かな地域になってほしいと願っています。

- **名称** 特定非営利活動法人 埼玉フードパントリーネットワーク
- **所在地** 越谷市千間台西5丁目1-1 プラネせんげん台306
- **問合せ**  saitama.pantry.network@gmail.com
[HP] <https://saitama-fpn.com/>

WEB





フードパントリー

多様なボランティアが支える、あたたかい活動 なないろフードパントリーさいたま

■ フードパントリーから必要な支援へ

スクールソーシャルワーカー(SSW)の経験から、支援を必要とする人々が声を上げやすい環境を作りたいと考え、フードパントリーの活動を立ち上げました。「食」や「もの」を提供するという活動をきっかけに、その先の支援へとつなげることを目的としています。さいたま市見沼区を拠点とし、登録世帯120世帯を対象に、偶数月の第1日曜日に活動しています。



▲ パントリーでの様子

■ 地域に根ざした活動を、SSWら専門家が包括支援

フードパントリーが中心ですが、季節のイベントや個別相談会も同時に行い、参加者同士の交流を促し、支援情報の提供も行っています。食品に加えて衣類や日用品も配付し、学習支援や子育て・生活相談のサロンも開催しながら個別相談を実施しています。継続的な支援や他の支援先との連携も生まれ、包括的な支援へと発展しています。活動は、SSWを中心メンバーとしたボランティアによって支えられており、その半数は福祉関係の専門家、残りの半数は地域の方々と構成されています。

■ 活動拠点の拡大と課題への挑戦

活動の幅を広げるために現在のさいたま市の拠点に加えて、イベント開催や支援の場として、りそな YOUTH BASE浦和も活用していく予定です。地域に根ざした活動を継続し、孤立せず自分らしい生活を送れるような自立を支援していきます。食材の保管場所の確保など課題も抱えていますが、任意団体としての活動を続けながら、行政やNPO法人との連携も強化し、地域全体の底上げに貢献していくことも目標としています。

なないろフードパントリーさいたま代表 井上 百合枝さんの思い

フードパントリーの活動に対して参加者からは、フードパントリーが貴重な交流の場となり、こどもたちも元気になるとの声が寄せられています。企業や社会福祉協議会との連携も実現し、りそな YOUTH BASE浦和をイベント開催場所・こどもや家庭の支援拠点として活用する予定です。地域社会とのつながりを大切にし、参加者が孤立せず自分らしく生きていけるよう、活動を継続していきます。

- 名 称 なないろフードパントリーさいたま
- 開催日時 偶数月第1日曜日
- 開催場所 さいたま市見沼区東宮下付近(詳細非公開)
- 利用料 無料
- 申込み メール、電話、FAX
- 実施団体 なないろフードパントリーさいたま／事務局 合同会社陽だまりのnekoの夢
- 問合せ ☎ 048-795-6430(留守番電話対応、FAXも同じ番号)
✉ nanairo.saitama@gmail.com
[Facebook] <https://www.facebook.com/nanairo.saitama>





お互いさまの気持ちで、地域全体で支え合う社会の実現を 羽生子育て応援フードパントリー

■ コロナ禍で新たな社会課題を発見

羽生子育て応援フードパントリーの立ち上げは約5年前、こども食堂の活動がきっかけです。当初は、親子が安心して集える居場所作りが目的でした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大で状況は一変し、雇い止めや勤務制限などによる困窮家庭の厳しい状況を目の当たりにしました。お弁当配布を開始し、食による経済支援と親子の居場所の役割も担うようになりました。経済的に厳しい家庭の利用増は、社会課題への認識を深めるきっかけとなりました。



▲ 野外でキャベツ、トマト、野菜のお渡し

■ 顔の見える支援で、行政とも連携し地域で支える

現在、偶数月の第3土曜日に、ひとり親家庭や児童扶養手当受給家庭を対象に食料を提供しています。こども食堂とフードパントリーの利用者が重なっているため、一人ひとりの状況に合わせた顔の見える支援ができています。行政とも連携し、ひとり親家庭への行政情報の提供の際に、フードパントリーの案内を同封してもらうなど必要な人たちに情報が届くようにしています。

■ 合言葉は「お互いさま、助け合いの街」

フードパントリーの活動を通じて、貧困に直面している人々を支援することの重要性を再認識し、新たにコミュニティフリッジ(みんなの公共冷蔵庫)を設置しました。これは、住民が食品を無料で共有できる冷蔵庫で、助けを求めにくい人たちも必要な食品を受け取ることができる仕組みです。こども食堂から発展した取り組みを通じて、「お互いさま、助け合いの街」を合言葉に、地域全体で支え合う社会の実現を目指し、安心して暮らせる地域社会の実現に向けて活動を続けています。

羽生子育て応援フードパントリー代表 田村 信征さんの思い

居場所を増やす活動において、他と比較して利用者数を競うのではなく、それぞれの団体の動機や規模、内容、考え方の違いを尊重することが重要です。他団体の活動から学び、良い点を自身の活動に取り入れることで、視野を広げることができます。また、FacebookやHP、紙媒体を通じて積極的に情報を発信することで、共感を広げるだけでなく、活動の振り返りや改善にもつながります。

- 名 称 羽生子育て応援フードパントリー
- 開催日時 偶数月第3土曜日
- 開催場所 羽生の杜(羽生市桑崎1331-2)
- 利用料 無 料
- 申込み 随時申込み受付(ただし、ひとり親家庭・児童扶養手当受給者等)
- 実施団体 特定非営利活動法人 羽生の杜
- 問合せ ☎ 090-3348-2149(田村)【HP】<http://www.hanyunomori.org/>
【Facebook】<https://www.facebook.com/groups/hanyunomori>



WEB





支援企業

バランスのとれた冷凍のお惣菜で子育て世帯を支えたい！ ワタミ株式会社

ワタミ株式会社が運営する冷凍の食事宅配サービス「ワタミの宅食ダイレクト」では、お客さまに配送できなかった冷凍のお惣菜など約1,000食を、毎月埼玉フードパントリーネットワークの拠点へ届けています。

ワタミグループのスローガンは、「地球上で一番たくさんさんの“ありがとう”を集めるグループになろう」。食品ロスの削減はもちろん、生活にお困りの子育て世帯の支えになれたらとの思いで取り組んでいます。



- **企業名** ワタミ株式会社
- **事業内容** 外食事業、宅食事業
- **従業員数** 1,621名(2024年7月1日現在)
- **HP等** <https://www.watami.co.jp/>

WEB



支援企業

サッカーを通じてこどもたちに笑顔を届ける！ 浦和レッドダイヤモンズ株式会社

わたしたち浦和レッズは、こども食堂と連携して地域のこどもたちへの支援を行っています。

こども食堂を利用するこどもたちを試合観戦に招待したり、スタジアム内のグラウンドでサッカー教室を開催したり、クリスマスの時期には関係企業・団体の皆さまから寄贈物資を集めてお届けしたりと、様々な取り組みを実施してまいりました。

これからも地域に根差すプロスポーツクラブとして、地域の皆さまが笑顔あふれる生活を送ることができるよう活動してまいります。



- **企業名** 浦和レッドダイヤモンズ株式会社
- **事業内容** プロサッカーチームの保有、プロサッカー試合の興行、プロサッカーに関する広告宣伝及びグッズの開発・販売
- **HP等** <https://www.urawa-reds.co.jp>

WEB





飲み物を買うだけでこども食堂へ寄付ができる!? 株式会社伊藤園

株式会社伊藤園は、埼玉県子ども食堂ネットワークとコラボした「寄付型自販機」を県内各地に設置しています。こちらの自販機で飲み物を購入すると、設置者様の売り上げの一部が同ネットワークに寄付される仕組みとなっています。

自販機のデザインにも工夫を凝らしており、例えば通常であれば飲料メーカー様の広告などが掲示されるスペースには、こども食堂のチラシなどを自由に掲載することができます。

県内にこども食堂の活動が認知され、気軽に支援を行うことができる世の中になるよう、これからも応援していきます。



- **企業名** 株式会社伊藤園
- **事業内容** 茶葉(リーフ)/飲料(ドリンク)の製造販売
- **従業員数** 7,929人(連結)、5,226人(単独)
- **HP等** <https://www.itoen.co.jp>

WEB



「もったいない」を「ありがとう」へ! 株式会社セブン-イレブン・ジャパン

株式会社セブン-イレブン・ジャパンでは埼玉県内の一部店舗にてフードドライブの実施を広めております。

令和5年度に「さいたま市子ども食堂ネットワーク」と連携し、市内約120店舗に設置したフードドライブ回収BOXで食品を集め、団体が定期的に受け取る仕組みをスタートしました。

その後、さいたま市以外にも取り組みを展開し、令和6年12月末時点で約160店舗に回収BOXを設置し、地域の支援団体などに寄付しております。

食にお困りの方を支援するとともに、世の中の食品ロスの削減に繋げております。



- **企業名** 株式会社セブン-イレブン・ジャパン
- **事業内容** 直営方式及びフランチャイズ方式によるコンビニエンスストア事業
- **従業員数** 8,333人(令和6年2月末現在)
- **HP等** <https://www.sej.co.jp/index.html>

WEB



■ こども応援ネットワーク埼玉

貧困の連鎖の解消に向け、社会貢献活動などを行う団体・企業や個人のネットワークです。

会員の皆さんの得意な分野を活かし、自分たちでできることを自分たちで考えて実行することで、すべてのこどもたちがチャンスと希望を持って、素敵な大人になれるような社会を目指しています。



どなたでも会員になれます

埼玉県内で社会貢献活動を1つ以上実施する団体、個人などどなたでも無料で会員になれます。登録はホームページから行うことができます。

▶ <https://kodomoouen.pref.saitama.lg.jp/>



会員の皆さまを応援します

① マッチング

支援をしたいと考える企業や個人と支援を受けたいと考える団体とのマッチングをします。

② 情報発信

会員の社会貢献活動などを Facebook から発信します。
<https://www.facebook.com/kodomoouen.saitama/>



③ 有益な情報をお届け

セミナーやイベントの案内など、会員にとって有益な情報をメール・LINE でお届けします。

<https://lin.ee/Q1fXnrY> 【ID】@376fsmug



■ 地域ネットワークづくりの支援

ボランティア主体であるこどもの居場所は、スタッフ、物資、資金など、安定した活動のために多くの課題を抱えています。

そんな中、近年は団体間の相互扶助やスケールメリットを求めて、地域でのネットワーク化が進んでいます。

地域の課題が地域内で解決され、地産地消の支援が行われ、こどもの居場所の運営の安定化や新たな拠点の開設を後押ししてくれる、そんな地域ネットワークづくりを県は応援しています。

地域ネットワークづくりのノウハウや、県内の地域ネットワークの活動や企業連携の事例を紹介した冊子を作成しましたので、ぜひご覧ください。



<https://kodomoouen.pref.saitama.lg.jp/assets/pdf/startbook.pdf>

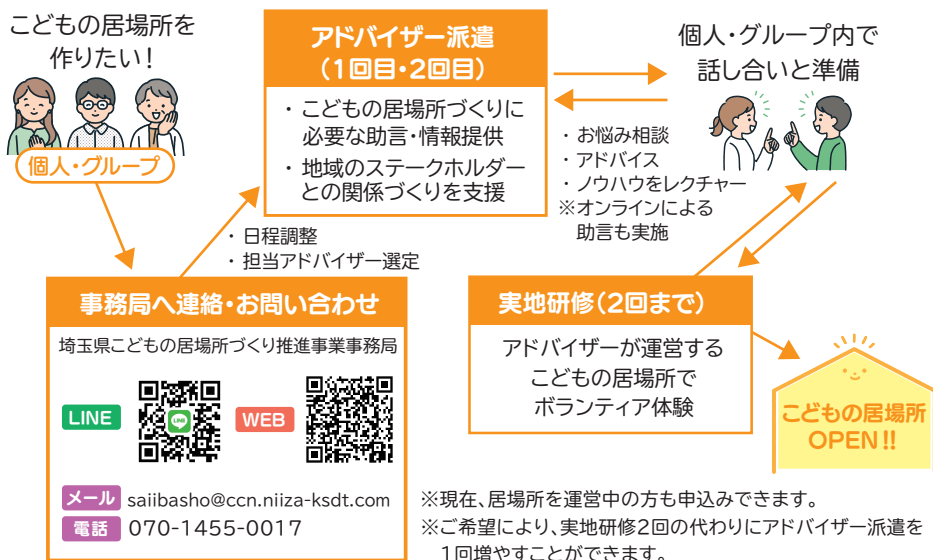


こどもの居場所づくりアドバイザー

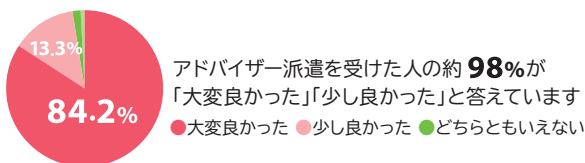
こども食堂などのこどもの居場所づくりに取り組みたいと考えていても、どのように活動資金や食材を集めたらよいか分からず、行動することをためらってしまう方も多くいるのではないのでしょうか。

埼玉県では、こどもの居場所づくりの実践者や、食品衛生・栄養・広報・福祉制度・法律・資金などに関する専門家をアドバイザーに任命し、こどもの居場所づくりに取り組みたい方のもとに派遣しています。立ち上げ期のお悩み解決の手助けをしています。

アドバイザー派遣の流れ～こどもの居場所ができるまで



R4年度・R5年度の利用者アンケートより



R5年度アドバイザー派遣を利用し開設した居場所 (全27件)

東松山市「子ども食堂さくら」
草加市「ふーどぼんとリーBelieve」
三芳町「みんなのカフェいきぬき」
杉戸町「杉戸こども食堂 はらぺこ」ほか

感想の一部

- 幅広い分野でアドバイスをしてもらった。具体的な方法や情報だけでなく、経験を聞くことはとても心強く感じた。
- 活動の実施や継続していくことの素晴らしさを教えてもらい、勇気づけられた。この事業がなければ始められなかった。
- 既存の団体でもアドバイザー派遣を利用して、ブラッシュアップを図ることが大切だと感じた。



埼玉県 こどもの居場所づくり 事例集

【発行者・問合せ】

埼玉県福祉部こども支援課

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

(電話)048-830-3348 (FAX)048-830-4784

(E-mail) kodomooouen@pref.saitama.lg.jp

発行日／令和7年3月